

七月

八日 ▲赤色労働組合インターナショナル大會。重要議事(一)八時間労働制と赤色労働組合(二)労働組合と工場委員会(三)組織問題(四)植民地及半植民地に於ける活動(五)農民インターナショナルと農業労働者等々。

九月

二十五日 ▲ネヅワ河汎濫、レニングラードの要所に浸水、全市に戒嚴令を布く。

十月

二十四日 ▲ジノヴィエフの署名と稱する煽動的書簡デーリー・メール紙上に發表、イギリス政府抗議す。

二十八日 ▲佛蘭西、ロシア承認。

十一月

七日 ▲革命第七週年記念祭舉行。

二十四日 ▲所謂ジノヴィエフ書簡なるものゝ偽書なること、ロシア訪問の英國労働組合代表者により明かとなる。

一九二五年

(大正十四年)

一月

五日 ▲勞農政府最初の私有資本株式会社創立さる。

七日 ▲農村不安解決の爲め、農村サウエート特別大會をモスコウに開催、カリニン農民の自由を説く。

十一日 ▲酒類專賣局法案出づ。

十四日 ▲失業防止策として個人的雇傭契約を許可す。但し契約後労働局に申出づべきこと。

十九日 ▲トロツキイ軍事委員長辭職。

二十日 ▲日露外交關係復活。

二十一日 ▲ロシア各地にレーニン一週年祭舉行。

二十九日 ▲改正選挙法施行。

三十一日 ▲市町村サウエート選挙投票数有権者の三割五分に達せず、再選挙を命令。

二月

一日 ▲ルイコフ、北カウサスの勞農大會にて、反革命運動参加者の特赦を聲明。

四日 ▲ミンスクの勞農官憲、白ロシアのポーランド人農業經營者追放命令。

十四日 ▲獨逸國民黨のスパイにして第三インターナショナル幹部暗殺の目的を以てロシアに入れる學生二名モスコウにて逮捕、偽造の勞農政府の文書も發見さる。

十八日 ▲赤衛軍縮少案、革命軍委員会へ提出。

二十日 ▲地方勞農委員会再選挙。

二十六日 ▲モスコウ労働組合ルール炭坑爆發罹災者に一萬金マルクを贈る。

三月

- 一日 ▲帝政時代の貴族階級地主にして、革命後國有となりたる舊領地居住者に立退を命ず。但し多少の耕地は分讓され、動産は沒收せず、又農奴より地主となりしもの土地は沒收せず。
- 二日 ▲聯邦中央執行委員會チフリスにて開催。
- 四日 ▲赤色労働組合インターナショナル、上海の日本人経営工場雇傭支那人救済の機を發す。▲上海罷業團に三萬ルウブルを贈る。▲トロツキイ復職運動開始。
- 九日 ▲勞農ロシア顛覆の陰謀者三十餘名レーニングラードにて捕縛、大部分は帝政時代の外交官養成機關たりし「アレキサンドル學院」の教師及學生。
- 十九日 ▲聯邦中央委員會トランス・ナフカス委員長ナリム・ナリマノフ死去。
- 三十日 ▲國際労働運動統一の爲め倫敦に開催さるべき英露労働組合代表者會議に列席の爲めロシア側代表モスコウ出發。
- 四 月
- 一日 ▲ロシア労働組合代表トムスキイ外七名、倫敦着。
- 六日 ▲トムスキイ、英露労働組合會議の席上、アムステルダム側の決議（ロシアの組合がアムステルダムに加盟の上合同問題を協議すべきこと）に反對の旨聲明。
- 十日 ▲農民インターナショナル第二回大會開催。二十九ヶ國の代表者四十五名出席、全露中央執行委員長カリニンの歡迎演説。▲英露労働組合協議會協定成る、聯合委員會組織に決定。
- 二十七日 ▲ロシア共産黨第十四回大會モスコウに開催。

五 月

- 五日 ▲軍事委員長フルンセ全國徵兵制度提案。
- 九日 ▲ロシア共産黨中央執行委員會新農民政策起草。
- 十一日 ▲憲法改正案批准。トルキスタン、ウズベキスタン二共和國の聯邦脫退承認。
- 十七日 ▲白ロシアに叛亂起る、赤衛軍鎮壓。
- 二十五日 ▲トロツキイ最高經濟會議科學部長に選任。
- 六 月
- 十一日 ▲全露労働組合中央委員會、支那罷業者に應援金五萬ルウブルを贈る。
- 十六日 ▲イズウエスチア主筆ステツクロフ罷免。
- 七 月
- 十一日 ▲チチエリン上海にて捕縛されしドツセルの釋放を要求。
- 二十五日 ▲前アレキサンドリア學院學生十八名處刑。
- 八 月
- 四日 ▲第三インターナショナル、佛蘭西、西班牙と交戦せるモロッコ軍應援の爲め顧問派遣。
- 七日 ▲軍事委員長フルンセ乗組列車ミンスク附近にて爆破さる。
- 九 月
- 二十三日 ▲モスコウ機械工組合、ボンベイ紡績工罷業應援の爲め一萬ルウブルを贈る。

十月

- 二十九日 ▲反革命陰謀發覺、首謀者エストニア參謀本部。
- 三十一日 ▲軍事委員長フルンゼ死去。

一九二六年

(大正十五年)

二月

- 六日 ▲全露勞働組合評議會第三回總會 主なる議事(一)農村事業(二)勞働組合と共產主義者教育及宣傳事業(三)貸銀政策(四)勞働組合統一問題。

- 十七日 ▲共産インターナショナル第六回擴大執行委員會。(一)執行委員會の活動報告(二)勞働組合の國際的統一問題、(三)英國共產黨其他の活動報告。

三月

- 九日 ▲赤色インターナショナル中央評議會第四回會議モスコウに開催。主要決議は、(一)當面の任務に関する決議(二)國際宣傳委員會當面の任務に関する決議(三)チエツクスロヅキアの運動に関する決議(四)支那組合運動の行動綱領(五)日本代表の報告に関する決議(六)八時間勞働日に關する決議等。

七月

- 七日 ▲英露炭坑夫共同會議ベルリンにて開催。「全世界の勞働者は英國炭坑夫を極力支持せよ」との共同宣言發表。

八日 ▲全露勞働組合中央委員會、英國炭坑罷業後援資金送附。

十四日 ▲ロシア共產黨中央委員會及中央委員會は共同會議の結果黨内の「新反對派」の處分斷行。

二十日 ▲最高經濟會議々長フェリツクス・ヂエルヂンスキイ死去。

三十日 ▲英露合同協議會巴里に開催。英國炭坑罷業に對する態度に關し兩者意見の一致を見ず。

八月

二十三日 ▲英露合同會議伯林に開く。議題は巴里會議と同様炭坑罷業援助の件と國際勞働運動統一問題。

九月

九日 ▲ロシア勞働組合中央委員會のトムスキイ、ボーマンズの英國勞働組合大會に、英國總罷業中に於ける組合幹部攻撃の電報を送る。

十六日 ▲第三インターナショナル支那非干涉宣言發表。

十月

二十六日 ▲ロシア共產黨第十五回全國會議モスコウに開催。主要議事(一)國際政策(二)國內經濟政策(三)勞働組合問題(四)反對派問題、就中反對派問題に關し、スターリン中央委員會を代表して反對派の主張を排斥する旨の決議案を提出し、トロツキイ、ジノヴィエフ、カネフ等との間に論争あり結局無修正に委員案可決。

十一月

十一日 ▲青年共産インターナショナル擴大執行委員會モスコウに開催。

二十二日 ▲共産インターナショナル第七回擴大執行委員會開催。プハリン開會の辭、ジノヴィエフのコミ

ンタン議長辭職聽許。主要議事(一)國際情勢(二)勞働組合運動に於ける活動(三)英國及支那の狀態(四)農民問題等々。

十二月

七日 ▲全露勞働組合第七回大會、モスコウ大劇場に開催。英炭坑夫代表クック等講演を謝す。ロシアの送金總額千五百五十萬ルーブルに達す。

十九日 ▲全露勞働組合大會終了。トムスキー、ドガドフ中央委員長及書記に再選。

一九二七年

(昭和二年)

二月

二十六日 ▲サウエート外務委員長代理リトヴィノフは、英國の對露警告(今後サウエート聯邦にして支那に於ける排英運動を停止せねば通商協定を破毀する旨の)に對し、かゝる抗議は根據なき云ひがよりであるから、英露國交の斷絶恐るゝに足らずと回答す。

三月

十日 ▲青年共產インターナショナルの戰爭反對國際週間始まる。

二十九日 ▲英露勞働組合會議伯林に開催。

四月

一日 ▲英露勞働組合會議協定成立。

六日 ▲北京外交部次長指揮の下に支那巡警及張作霖の部下三百名駐支勞農大使館を搜索し、ロシア人支那人合計八十五名を逮捕す ▲勞農代理大使嚴重の抗議をなす。

十八日 ▲サウエート大會開催。

二十九日 ▲國際經濟會議に参加に決定、代表委員オツシンスキー。

三十日 ▲支那革命運動同情週間開始。

五月

三日 ▲北京に收監中の共產主義ロシア人、餓死同盟を決行。

六日 ▲勞農政府張作霖に檢舉されたるロシア人共產黨員虐待に對し抗議す。

七日 ▲國際會議に於て勞農代表次の如き要求をなす。(一)職債の棒引(二)勞賃引上げ(三)八時間勞働(四)組合及ストライキの自由(五)失業者保護(六)物價の値上げ防止(七)超過人口の自由移民(八)植民地廢止(九)軍備撤廢(一〇)反サウエート主義廢止(一一)對支武力干涉反對。

九日 ▲ジノヴィエフ、中央委員會及「ブラウダ」紙の對支政策攻撃演説。

十二日 ▲ロンドン警察、ロシア商務官の本部アルコス會社搜索、書類押收。

十三日 ▲共產黨中央監督委員會、對支問題演説に就きジノヴィエフを訊問。

十四日 ▲アルコス事件に關しロシア各地に抗議示威運動行はる。

十七日 ▲アルコス事件に關し英政府に嚴重抗議。

十九日 ▲第三インターナショナル執行委員會開催。トロツキ一派の主張はレーニンの遺したる根本主義と

全く相容れぬ旨の決議をなす。

二十日 ▲レーニン未亡人「反対派」を脱退聲明。

二十六日 ▲英露斷交。

三十日 ▲コンミンテルン執行委員會對支政策決議、(一)農民組合の權限擴張と政策、(二)軍隊内に於ける活動、(三)外國軍隊派遣反對。

六月

一日 ▲トロツキイ一派檢舉さる。

七日 ▲ポーランド駐劄ロシア公使フオイコフ、ワルソウ驛にて白ロシアの一帝政派青年に射殺さる。

十日 ▲反革命派の前白衛軍々人ドルゴルコフ公其他二十名死刑。

七月

五日 ▲第三インターナショナル、解放運動に一生を捧げた老闘士クララ・ツェトキン女史の生誕七十年祝賀會を開く。

十一日 ▲「國防週間」開始。

十四日 ▲第三インターナショナル執行委員會開催。支那に於ける武漢派任務終了聲明。

八月

二十日 ▲訪日「我等の答禮機」モスコウを發す。

二十三日 ▲モスコウ、レーニングラード、ハリコフ、キエフ等に於て數十萬の勞働者サツコ、ヴァンゼツチ

死刑反對示威運動行はる。又ロシア學士院は緊急總會を開き米國政府に抗議す。

九月

一日 ▲「我等の答禮機」東京着。

十二日 ▲レーニングラードに於て英國スパイ數十名に對し公判開かる。中九名死刑。

三十日 ▲トロツキイ第三インターナショナル執行委員罷免。

十一月

一日 ▲ロシア政府、國際聯盟の軍縮會議に参加承諾。

五日 ▲ロシア革命十週年記念の爲め特赦令發布。

七日 ▲革命十週年記念祭をモスコウに開催。

十日 ▲モスコウ共産黨統制委員會、トロツキイ、ラヂツク其他反對派幹部、除名提議。▲各國より參集せる

「ロシアの友」の大會、勞働組合會館に於て開催。

十二日 ▲ロシア共産黨統制委員會、革命記念日にトロツキイ派示威運動に参加せし反對派七十六名の役員罷免、同中央委員會、トロツキイ及ジノヴィエフの黨籍除名を決議。

十七日 ▲利權委員會委員の閑職にあつたヨッフエ、神經痛再發病苦に堪へず拳銃にて自殺す。▲トロヤノフ

スキー新任日本駐劄大使に任命。

二十二日 ▲ルイコフ、ハリコフ市に開催されたウクライナ共産黨大會に於て内治外交に關する重要な演説をなす。

二十八日 ▲一九二四年以來杜絶せるオデッサ、コンスタンチノブル間の海底電線復舊開始。▲ロシア政府と米國フアトクハル會社との間に四千萬弗の借款契約成立。

十二月

二日 ▲ロシア共産黨第十五回大會モスコウに開催。

十五日 ▲南京國民政府ロシア政府に國交斷絶の通告をなす。

十八日 ▲ロシア共産黨大會、トロツキイ、ジノヴィエフ以下の反對派九十八名を除名。

十九日 ▲共産黨大會終了。幹部派提出の決議全部採擇。ジノヴィエフ其他の復黨請願。

二十二日 ▲後藤新平一行モスコウ到着。

(T.S)

索引

【ア】

アルテル……………三、一三六
 アクセルロード……………七、九
 アレキサンダー三世……………七、一二二
 アメリカとロシア……………九一
 安定期の政策……………一一一
 アレキサンダー二世……………一一六
 アセフ……………二九七
 アイフリナ……………二九七
 アレクサンドロウスキイ……………二九七

【イ】

インテリゲンチア……………三
 イストラ國……………九
 一九〇五年革命……………一〇、一二三
 一九二五年十月訓令……………三一、三五
 イタリーの工場占領……………九七

索引

イズダエステヤ……………一三七
 一九一七年二月革命……………二二二
 生ける新聞……………二九九
 育兒所……………三〇九
 イストラ……………三四六

【ウ】

ウ・ナロード……………六
 ウエストニーク・ツルード……………二五一
 ウタイキン……………二九七

【エ】

エコノミスト……………九、一三
 英露通商協約……………七六、三四九
 英露委員會……………一〇六
 英露統一委員會……………二五二
 英露労働組合會議……………二五二
 嬰兒死亡率……………三〇九

【オ】

音 樂……………三〇〇

【カ】

- 加盟共和国サウエート大会.....三七
- 加盟共和国.....四六
- 外國貿易の獨占.....八三、八四
- 革命後のドイツ.....九六
- 貨幣制度廢止.....一五九、一六三
- 「貨幣なしの決済」.....一六三、一六四
- 貨幣改革.....一六九、一七〇
- 株式組織銀行.....一八八
- カメネフ.....一九四、三三六、三三八
- 過渡決済.....二一七
- ガボン僧正.....二二八
- 「解放」.....二二九
- カジン.....二九七
- 繪畫.....二九九
- 夏期兒童キャンピング.....三一〇
- 學校委員會.....三二八
- カリニン.....三三八、三四〇
- カラハン.....三五一

【キ】

- キエンタール會議.....一一
- 協同人民委員部.....四五
- 機關の變遷.....六一
- 協同組合産業.....七〇
- 北樺太鑛業石炭利權契約.....八七
- 「共産インタナショナルの根本使命」.....一〇〇
- 共同戰線.....一〇四
- 貴族不動産銀行.....一二二
- 共産インタナショナル擴大執行委員會.....一二二
- 農民問題テーゼ.....一三二
- 共産インタナショナル執行委員會農業問題テーゼ.....一三二
- 共同的農業經營形態.....一三四
- 共産黨第十四回全露大會.....一九五
- 共産黨第十五回全國會議.....一九九
- 共産黨第十五回大會.....二〇七
- 共産黨第十四回大會.....二二〇
- 協同組合運動.....二五四

- 強制労働.....二八一
- 義務教育.....三〇六

【ク】

- 黒百人組.....一〇
- 郡サウエート.....三六、五二
- クリム戦後.....一一六
- クルプスカヤ.....一九四、三〇三、三〇八、三五七、三五八
-二二三
- グリネウイチ.....二五五
- グドーク.....二九七
- グラドコフ.....三四八、三五〇
- クラツシン.....三五四
- クイビシエフ.....三五四

【ケ】

- ケレンスキー.....一二
- 縣サウエート.....五二
- 「現物税に就いて」.....一四五
- 藝術政策.....二九五

- 劇場.....二九八
- ゲデイケ.....三〇〇
- 研究所.....三〇七、三二五

【ク】

- 黒分黨.....三、七
- コルニロフ.....一二
- 合同國家政治局.....四六
- 國有化.....六三
- 國家産業中央管理局.....六五
- 合辦會社.....七一
- 國際經濟會議.....八五
- 國際經濟準備委員會.....八五
- コンセツション.....八六
- コンミニュニスト・インタナショナル(KI)第五回大會.....一〇七
- コンミニュニスト・インタナショナル對被壓迫民族政策.....一一〇
- コンミニュニスト・インタナショナル(KI)第二回大會.....一一〇

コミュニオン……………一八八
 國家資本主義……………一四六
 國立銀行……………一五七、一六四
 ゴロウアノフ……………一六六
 コンミンテルン……………二〇三
 國營産業……………二一五、二二六
 工場法……………二二六
 ゴウオスドエフ……………二二二
 國際宣傳委員會……………二五二
 工業組合……………二六一
 工業監督に關する布令……………二七五
 工場監督官……………二八四
 工場學校……………三〇六
 構案教育法……………三一九
 高等專門學校……………三〇七、三二二

【サ】

ザスリツチ……………七、九
 サウエート……………一一
 サウエート聯邦……………一二

サウエート・ロシア・社會主義共和國聯合……………一四、二七
 ………………二五
 サウエート聯邦憲法……………六四、六五、六六
 最高經濟會議……………六五
 産業經營の分權化……………一一九
 三圃農法……………一六四
 財務人民委員部……………二四五
 産業聯合會……………二九一
 債權法……………三一九
 作業主義……………三二六
 サウエート法律政治研究所……………三二六

【シ】

人民の意志……………三
 「人民の意志」黨……………七、一〇、一二
 社會革命黨……………一〇
 十月韶勅……………一〇
 十月黨……………一五、一六
 シベリア……………三五、五四
 市サウエート……………

州サウエート……………三六、五〇
 人民委員會……………四四、四八
 自治共和國……………四八
 自治州……………四八
 社會化……………六四
 新經濟政策……………六五、一四一、一七四、
 一九四、二二三、二七九
 シンヂケート……………六八
 私的産業……………七一
 自作農創定……………一二六
 新反對派……………一四八、一九三、一九九、二〇七
 自由市場の廢止……………一六四
 消費組合……………一六七、二五九
 所得税……………一八五
 消費税……………一八五
 ジノヴァイエフ……………一九四、二〇五、二〇七、
 三四〇、三四三
 支那革命……………二〇二、二二三
 シヤロフ……………二〇四
 シドロウスキー……………二二九

【ス】

十月革命……………二三四
 十人政綱……………二四〇
 社會立法……………二五〇
 實物貨幣に關する布令……………二七五
 社會保險に關する命令……………二八一
 新民法……………二九〇
 質權……………二九一
 所有權……………二九一
 自助劇場……………二九九
 新ロシア憲法第十七條第十八條……………三〇四
 職業學校……………三一九
 ジノヴァイエフ事件……………三四一

スタンケウイツチ……………五
 スツルグエ……………九
 ストックホルム會議……………一〇
 スラブ民族……………一八
 スヴァリース……………二二〇
 ストリーピンの土地改革……………一二四、二五五

ストライキ運動……………二二六、二二二
 スパトフ運動……………二二七
 スタテイスティカ・ツルメダ……………二五一
 スラトエフ……………三〇〇
 スターリン……………三四五―三四七

【セ】

ゼムリア・イ・ウオリア黨……………六
 全露民主會議……………一二
 赤色労働組合インタナショナル……………一二、二五一、
 二五二
 生産細胞……………六八
 世界貿易に於けるロシアの地位……………七九以下
 ゼノア會議……………八五、三四七
 精銳主義……………一〇〇
 全サウエート國民經濟會議……………一六二
 ゼムストーゾオ……………一七
 戰時共產主義……………一三九、二一四、
 二二六、二九〇
 セウオロド……………二九七

セレブリヤコフ……………二〇四
 戦争及産業委員……………二二二
 全露消費組合中央聯合會……………二五五
 セラフイモヴィチ……………二九七
 成人教育……………三〇七
 赤衛軍……………三〇八
 ゼミナール教育方法……………三二三
 世界政治經濟研究所……………三二五
 ゼノアの歐洲經濟財政會議……………三四九

【ソ】

村サウエート……………五三
 相互扶助金庫……………二二八
 損害賠償義務……………二九一

【タ】

第二インタナショナル……………一一
 第三インタナショナル……………一一、一二
 第三インタナショナル第三回大會……………九七
 大衆へ……………九九、一〇二、一〇三

對露債權債務問題……………三四九

【チ】

チエルニシエフスキ……………五
 チムメルワルド會議……………一一
 調停委員會……………四二
 中央執行委員會常任理事會……………四三
 中央經濟管理局……………六五
 貸貨産業經營……………七〇
 チエルゾオネワ留……………一七四、一八七
 直接税……………一八五
 貸銀に關する命令……………二七四
 地上權……………二九一
 チチエリン……………三四七、三五〇
 チエルヂンスキイ……………三五三、三五四

【ツ】

ツガン・バラノフスキイ……………九
 通貨の膨脹……………一六二
 ツルード……………二五一

第三インタナショナル第二回大會……………一〇〇
 大衆黨……………一〇四
 太平洋労働會議……………一一一
 單一通貨制度……………一七二
 多數派……………二二〇
 第二回全國労働組合會議……………二二〇
 第三回全國労働組合會議……………二二二
 第一回労働組合大會……………二二五
 第二回労働組合會議……………二二七
 第三回労働組合大會……………二三八
 第五回全國労働組合會議……………二四〇
 第四回サウエート聯邦労働組合大會……………二四一
 第五回サウエート聯邦労働組合大會……………二四二
 第六回サウエート聯邦労働組合大會……………二四三
 第七回労働組合大會……………二四四
 タイロウ……………三九八
 男女共學……………三〇六
 大 學……………三〇七
 ダルトン・プラン……………三一七、三一八、三二一
 第一商業經濟專門學校……………三二一

ツェントロサユウズ……………二五五

【テ】

デカプリスト……………四

【ト】

土地と自由……………三、六

統一人民委員部……………四五

トラスト……………六六

ドイツ共産黨の革命運動……………九六

黨と組合の區別……………一〇三

ドゥズ案……………一〇七

ドイツ共産革命……………一〇七

土地兼併……………一一一

土地の社會化に関する布告……………一三〇

土地所有權の廢棄に関する布告……………一三〇

土地の社會主義的組織に関する規定……………一三四

土地社會化の法律……………一四〇

トロツキイ派……………一四八

トロツキイ主義……………一九四

トロツキイ……………一〇二、一〇五、一〇七、

三三三、三三六

獨立主義者……………二三八

統一勞働法典……………二七六、二八一

トルストイ……………二九六

統一勞働學校……………三〇六、三一、三五九

都市職業學校……………三二〇

東邦文化大學……………三二五

トムスキー……………三五五—三五七

トロツキイ夫人……………三五七

【ナ】

南露勞働者同盟……………七、一二五

ナロウドニキ……………一三、一二五、二五四

ナーシア・ガゼータ……………二五一

ナ・ワハテ……………二五一

【ニ】

ニコラス一世……………四

日露戰爭……………一〇

【ノ】

農奴解放……………三、五、一一六

農民土地銀行……………一二二

農業コンミュン……………一三五

農業組合……………一三六

農業 税……………一八五

農業學校(農村職業學校)……………六三〇、三二〇

農業經濟研究所……………三二五

【ハ】

バクニン……………六

パリ全黨會議……………一〇

八月 團……………一一

反幹部派の放逐……………九一

ハンガリー革命……………九六

八時間勞働に関する命令……………二七四

パプロフ學術研究所……………三二五

反レーニンの傾向……………三四二

パプロヴィツチ……………三五四、三五五

【ヒ】

評價調停委員會……………二七二

ビオニール……………三二八

【フ】

フレハノフ……………六、七、九

ブラコエフ……………七

ブラコエフ團……………七

フン ト……………八、九

ブラツセル大會……………九、一〇

フロムビエロウ……………六六

フレスト、リトウスク……………七四、二三六

不動産銀行……………一二二

フハーリン……………一四二、三四四、三四五

分派運動……………一九八、二〇一

フレオブラジエンスキー……………二〇四

フィシエルフ……………二〇四

ブラウダ……………二〇八

プロツク……………二一〇

不熟練労働者の賃銀に関する布令……………二七五
 プルジョア藝術……………二九五
 文 學……………二九六
 フルマノフ……………二九七

【ハ】

ヘルツェン……………六
 ヘーグ會議……………八五
 米國資本の輸入……………一四
 ペジミヤンスキー……………二九七

【ホ】

北露労働者組合……………七、二二五
 ポトレソフ……………九
 ボルシエヴィキ……………九、一〇、一一
 ポロスト……………三六
 ボルシエヴィキの農民政策……………一三二
 ポリス・ビルニヤク……………二九六
 ボクローフスキー……………三五五

【マ】

マルトフ……………九
 マスロフ……………二〇二、二一〇
 マルクスの協同組合論……………二五六
 マヤコフスキー……………二九七
 マイエルホールド……………二九八
 マルクス・エンゲルス研究所……………三二五、三六一
 マルクス・エンゲルス全集……………三六一、三六二

【ミ】

ミール……………三、一一八、一二三、
 一二四、一二五
 ミハイロフ……………六
 民衆の中へ……………六
 ミンスク……………九
 民族院……………三八
 ミヤスコフ……………三〇〇

【ム】

ラブファク……………三二四
 ラコウスキー……………三五二、三五三
 ラポーチ・ズナミア……………三五七

【リ】

リトワニア、ポーランド及ロシアに於けるユダヤ人労働者同盟……………八
 立憲民主黨……………一〇、一一
 リープクネヒト……………九六
 リアザノフ……………一三三、三六一、三六二
 臨時政府……………一三四
 リトヴィノフ……………三五〇、三五一

【ル】

ルゾオーフ……………一一
 ルクセンブルグ……………九六
 ルート・フィツシャー……………一〇二
 ルイコフ……………二〇八、三三一、三三三
 ルナチャルスキー……………二九三、三五九

ムラヴィエフ……………二二九
 無産者政治教育本部……………三五七

【メ】

メンシエヴィキ……………九、一〇、一一、一
 三、一三一、二二六

【モ】

モスコウ消費組合聯合會……………二五五
 モスコウ庶民銀行……………二五五

【ユ】

ユダヤ人……………八、一九

【ヨ】

幼稚園……………三一〇
 ヨツフエ……………三五一

【ラ】

ラウレニエフ……………二九七

【レ】

- レニニン……………九、一二、一二九、一三二、一四七、二二一、二七五
- 聯邦サウエート大會……………三八、四二
- 聯邦中央執行委員會……………三八、三九、四二
- 聯邦人民委員部……………四五
- 聯邦最高裁判所……………四六
- 聯合反對派……………一九八
- レベディンスキー……………二九七
- レオノウ……………二九七

【ロ】

- ロシア……………三
- 労働解放團……………七
- ロシア社会民主労働黨……………八、九
- 労働者階級解放同盟……………八、九
- 労働者新聞……………九
- 労働兵會……………一一
- ロシア共産黨……………一二

- ロシアの農業……………一六
- ロシアの人口……………一七、一八、二二、二二
- ロシアの選挙法……………三〇
- 露獨條約……………七六
- ロシアの對外貿易……………七七以下
- ロシアの穀物輸出……………八二
- ロシアの豫算……………一六五
- ロシアの歳入……………一七六
- ロシアの歳出……………一七九
- ロシア鐵道従業員全國同盟……………二二九
- ロシア社会民主労働黨ロンドン大會……………二三一
- ロソフスキー……………二二三、二四三、二四四
- 労働反對派……………二三九
- 労働聯邦労働組合の組織……………二四七
- 労働組合の資産……………二四八
- 労働保護委員會……………二五〇
- 労働組合機關紙……………二五一
- ロシアの工場委員會……………二六四、二六五、二六七
- 労働組合と工場委員會……………二六七
- 労働法制……………二七三

- 労働者統制に関する命令……………二七四
- 労働義務の實施に関する布令……………二七五、二七六
- 労働協約……………二七七
- ロシアの産業制度……………二八〇
- 労働協約に関する命令……………二八〇
- 労働賃率に関する基本規定……………二八一
- 労働保護に関する命令……………二八一
- 労働契約……………二八二、二八三
- 労働監督官……………二八四
- ロシア革命藝術家協會……………二八九
- ロシア國立教育協議會……………三一〇
- 労働者大學……………三二三
- 労働者の旗……………三五七
- 労働組合通信……………三五七

【ワ】

- ワシレンコ……………三〇〇

索引終



昭和三年十一月五日印刷
昭和三年十一月十日發行

〔定價貳圓〕

勞農聯邦研究

著作社 社會思想社

發行所 神田豐穂

印刷者 關根慶寛

印刷所 早稻田印刷株式會社

東京市牛込區早稻田鶴卷町三六二

東京市麹町區內山下町一丁目一番地

發行所 株式會社 春秋社

振替東京二四八六一番
電話銀座(57)五六五三番

告豫刊續書叢究研想思會社

- 第二卷 蠟山政道著 **イギリス労働黨研究**
- 第三卷 新明正道著 **軍人階級論**
- 第四卷 河村又介著 **新國家論附「民衆政治」**
- 第五卷 田中九一著 **インターナショナル研究**
- 第六卷 石濱知行著 **ドイツ經濟史研究**
- 第七卷 嘉治隆一著 **宗教及信仰の起源**
- 第八卷 福井イエルバ著 **基督教の本質**

◇ 行 發 社 秋 春 ◇

刊 新 最

芭蕉を尋ねて

荻原井泉水著
四六判 定價一・八〇
三八〇頁 送料一・四〇

著者は數年來、孤獨清愁、俳句道に於ける一介の旅人となつて漂泊した。而して全國に於ける芭蕉が行脚の跡を尋ね歩いた。山水は不易だ、古人の心も亦不朽だ。其地々々に立つて、芭蕉が心境を偲びその名吟を味ふ、恰も旅中の芭蕉を訪問して親しくもの面目に接する如くである。

虚子句集

高濱虚子著
四六判 定價一・八〇
三五〇頁 送料一・四〇

子規歿後の俳壇には、獨りわが虚子の在つて恒星の如く輝き、二十餘年の久しきに涉つて今日に及んでゐる。本書は著者の、遠く明治二十五年頃より近く昭和三年に至る、實に三十餘年間の數萬句中より三千句を自選せるものである。著者の傑作全集と稱するも敢て過言ではない。

放たれた西行

野口米次郎著
四六判 定價一・六〇
三二〇頁 送料一・四〇

月に泣き花に心を傷めたのも西行であり、二十三歳で出家して以來五十年の永い年月を見すばらしい曇染の衣に托したのも西行であつた。此の日本文學を飾る最も弱いしかも最も強い所謂獨創的人物である西行の眞の面目は、世界的詩人ヨネ・ノグチ氏の靈筆によつて茲に甦生した。

＝ 行 發 社 秋 春 ＝

改訂 日本歌謠史

博士 高野辰之著
上古から現代迄の民心の現れを、歌謠の方面から精選深慮に考察した名著。昭和三年
度帝國學士院の授賞書である。此改訂版で誤謬訂正は勿論、價を破格に低廉にした。

大東京繁昌記 (下町編)

東京日日新聞社編
本書は更に完備した大正昭和時代の「江戸名所圖繪」と云ふことが出来よう。執筆者
は、文に芥川、泉、北原、吉井、久保田、田山の諸氏。書にも當代一流を網羅した。

虚空の骨

問宮英宗述
新界の權威、問宮英宗禪師がその蘊蓄を傾けて、禪の極秘を懇切に平易に説かれたも
のである。禪を究めんとする人に、又一般修養の士にとつても最もよき伴侶である。

無産者イエス

米澤尙三著
馬小舎で生れ、人の墓を借りて葬られたイエスは、生れるから死ぬまで無産者であつ
た。その無産者の胸に孕まれた愛の福音こそは、時間と空間を超越するものである。

行 發 社 秋 春

~~100~~
30

